

【人材の養成に関する目的】

【ディプロマ・ポリシー（DP）】

■文学部

文化現象の総合的理解及びその継承を基本理念とし、その実現のために、少人数教育を基本とする教養教育及び専門教育との適切な調和を考慮したきめ細かなカリキュラムによって、問題発見能力及び多面的な分析能力の伸長を図ること、並びに言葉を通して形づくられた人間、歴史及び社会の多様なあり方を考究し、共感を持って他者を理解する能力及び自己を他者に正確に伝達する能力を涵養することによって、社会的な活動を自律的に展開するための基礎を構築することを目的とする。

■英米文学科

ア 英語を学ぶことにより、言語そのものに対する意識を育み、英米文学・文化を学ぶことを通じて文化が言葉によって成り立つことを認識させた上で、自国の文化及び異文化を相対化して読み解く力を育てること。

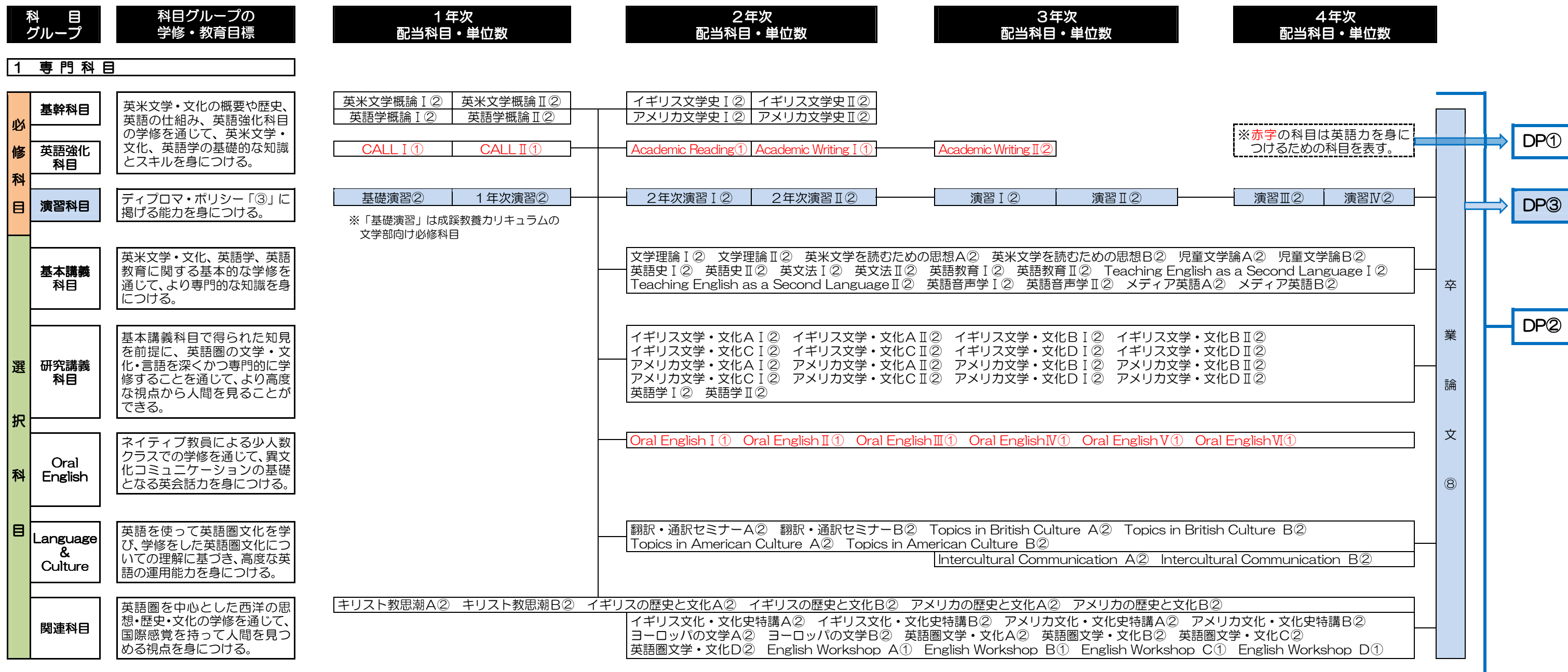
イ 第2言語としての英語の運用力を強化するとともに、英語圏の文化及び歴史について幅広い理解を持ち、自らの文化的背景に立脚した価値観に立って判断し行動する真の国際感覚を備えた人材及び日本の英語教育に貢献する人材を養成すること。

文学部では、1年次から指導教授制をとり、4年次における卒業論文（全員必修）の作成まで文学部全体としてきめ細かな履修指導を行っている。また、学部として成績評価のガイドラインを設け、各授業科目については、定期試験、レポート、授業態度、出席状況等を総合的かつ厳正に判断しながら成績評価を行っている。このようなきめ細かな履修指導と厳正な成績評価に基づき、文学部が目指す質の高い学生を社会に送り出すよう努めている。

このもとで、多様な価値観が並存し、対立し合っている現代社会を生きる上で必要となる、柔軟な知性と批判精神、すなわち次に掲げるような総合的な「資質と力量」を身につけ、国際教養人として課題を発見し解決する能力を修得した学生に、学士（文学）の学位を授与する。

- ① 成蹊教養カリキュラムの英語科目や英語強化科目、Oral English等の学修を通じて、異文化コミュニケーションの基礎となる英語力を身につけている。
- ② 英米の文学作品を通じて欧米の文化や歴史背景を学修し、人間に対する深い興味と観察力を育成、国際感覚を持って人間を見つめる視点を養った上で、他の国の人々に対しても自分の考えを正確に表現できる国際人としての適用能力を身につけている。
- ③ 各年次に配当された必修の「演習」及び「卒業論文」の作成を通じて、批判的・論理的思考力、課題探求・問題解決力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを身につけている。
- ④ 選抜制の「国際社会コース」の修了生は、必修のセミナーにおいて、「日本を考える」、「現代の世界」、「文化と人間」、「地球を考える」の4つのテーマの学修を通じて、国際化する社会についての知識と洞察力を身につけるとともに、英語によるコミュニケーション能力及び情報発信能力を身につけている。

※ 教養科目については、「成蹊教養カリキュラム：学修・教育目標（科目グループ別カリキュラム・フロー）」を参照



科目グループ	科目グループの学修・教育目標	1年次 配当科目・単位数	2年次 配当科目・単位数	3年次 配当科目・単位数	4年次 配当科目・単位数
2 自由設計科目（選択科目）					
文学部 共通科目	トピック・セミナー	トピック・セミナーA ② トピック・セミナーB② トピック・セミナーC② トピック・セミナーD② トピック・セミナーE② トピック・セミナーF②			
	e-Learning English	Grammar Practice I ① Grammar Practice II ①			
	古典語の世界	ラテン語Ⅰ② ラテン語Ⅱ② 古典ギリシア語Ⅰ② 古典ギリシア語Ⅱ②			
	国際社会コース	※ 国際社会コースを修了するために必要な講義科目については、履修要項参照。	国際英語セミナーⅠ② 国際英語セミナーⅡ② 国際社会セミナーⅠ② 国際社会セミナーⅡ②	国際英語セミナーⅢ② 国際英語セミナーⅣ② 国際社会セミナーⅢ② 国際社会セミナーⅣ②	DP④
	国際社会研究		国際社会研究②		
	文学部総合講義	文学部総合講義A② 文学部総合講義B② 文学部総合講義C② 文学部総合講義D②			
単位認定科目	資格課程認定単位	教育原論Ⅰ② 教育原論Ⅱ② 教育心理学② 教育史② 生涯教育研究②			
	留学関係認定単位	海外研修C② 海外研修D② 海外研修E② 海外研修F② 海外研修G② 海外研修H②			
	全学共通科目超過単位				
他学部・他大学	（他学科の専門科目、他学部の専門科目及び単位互換制度による他大学開講科目で修得した単位）				